

## 第5回アカデミー・プレジデント会合（APM）概要

日 時：平成24年10月8日（月）14：30～16：33

（平成24年10月7～9日の第9回STSフォーラム期間中に開催）

場 所：国立京都国際会館（ルーム104）

主 催：日本学術会議

参加者：23名（2国際学術団体・16か国）

（内訳）ICSU、IAC、ベルギー、チェコ、フランス、ドイツ、インド、イラン、イスラエル、日本、韓国、ラトビア、マレーシア、ロシア、南アフリカ、スイス、英国、米国

共同議長：大西隆 日本学術会議会長

Lal Krishan インド国家科学アカデミー会長

### 〔討議テーマ〕

1. How do we, science academies, effectively form “unique” voices of scientists and reflect them on the domestic policy-making?
2. U.N. Secretary-General, Ban Ki-moon, has recently agreed to set up an international scientific advisory board to support him on relevant issues. Under the circumstances, what roles scientists or science academies play in the world community?
3. In light of the sustainability for future generation, how shall scientists globally collaborate for seeking solutions to the worldwide challenges?

### 〔概要〕

冒頭、共同議長から開会挨拶があり、大西会長から3つの討議テーマについて紹介があった。

その後、共同議長の進行の下、各参加者から、自国アカデミーの状況報告も交えながら3つの討議テーマに関して順次発言があった。ICSU、IAP、IACの一層の連携の必要性、科学者による *evidence* に基づく独立したアドバイスの重要性、アカデミーが行う分野横断的なアプローチの有用性、アカデミー相互の地域レベル及び地球規模での連携の必要性など、アカデミーの役割に関し様々なコメントがあった。

全参加者からの発言終了後、大西会長から総括的なコメントとして、第1のテーマに関し、アカデミーと政府との間で如何に適切な距離感を維持するか、また限られた *evidence* に基づき如何に説明をするか、常に考える必要があるとの発言があった。また

第2のテーマについては、適切な人物が国連事務総長の科学アドバイザーとなり、国連レベルの政策立案に科学が活かされることを期待する旨のコメントがあった。

さらに、第3のテーマについて ICSU の Lee 会長から、新たな地球環境研究プログラムである“Future Earth”が、現在何が起きているか把握できていない諸問題に対し、解決策を明示してくれることを望みたい、とのコメントがあった。

また、IAC の Dijkgraaf 共同議長から、IAP 及び IAC がアカデミーの国際連携に果たす役割についてコメントがあった。

最後に、インド国家科学アカデミーの Lal 会長から総括があり、良く構成された議論で有意義な意見交換が行えたことに感謝する旨のコメントがあった。

(以上)